

2025年度版

東秩父村「ふるさと支援隊」活動報告



1.「ふるさと支援隊」とは？

経営学部 三國ゼミナール(3/4年)

中山間「ふるさと支援隊」概要

埼玉県内でも、高齢化や過疎化の進行により、農林業や地域活動の維持が困難な状況となっています。こうした状況に対して、埼玉県では、平成22年度から大学生による「ふるさと支援隊」を組織し、若い感性や専門知識を活かして中山間地域に活力をもたらす支援を行っています。令和5年度までに、延べ54のふるさと支援隊が集落の活性化に取り組んできました。これにより、地域の農業や伝統文化の継承など、持続可能な地域社会の構築が進められています。



ふるさと支援隊HP

三國ゼミナールでは、東秩父村における観光・地域資源の再発見と発信をテーマに、ふるさと支援隊の活動を行っています。学生目線で東秩父村の新しい魅力を発掘し、SNSを活用した様々な媒体でその魅力を広く発信しています。これにより、東秩父村の知名度向上を図り、訪れる人を増やすことが目標です。この取り組みによって、地域の活性化や持続可能な観光の促進が期待されており、地域住民との連携も深まっています。

2.私たちが「東秩父村」を選んだ理由

① 消滅可能性自治体

現在、多くの自治体が過疎化や高齢化に直面しており、特に東秩父村もそのような課題を抱えています。人口減少や地域経済の停滞が進行しているこの地域に対して、私たちはその実情を学び、少しでも地域の活性化に寄与したいという強い思いを持っています。東秩父村の存続と魅力を発信することで、地域の将来に貢献し、東秩父村への知名度向上を図るのが、私たちの活動の大きな目的です。

② ゼミ卒業生が和紙職人見習い

三國ゼミの卒業生である市村太樹さんが、現在この村で和紙職人として活躍されています。市村さんは埼玉県寄居町出身で、城西大学経営学部を2017年3月に卒業後、細川紙を次の世代に繋ぐため日々修行を重ねています。市村さんは私たちの活動に期待を寄せており、学生が和紙の魅力を広め、新しい使い方のアイデアを考えてくれることを望んでいます。このご縁を大切に、少しでも地域の助けになればと考えています。

③ 城西大学との相互連携協定

秩父郡東秩父村と城西大学は2024年1月31日、相互連携に関する基本協定を締結しました。包括的な連携のもと、産業、文化、学術等の分野で相互に協力し、地域の発展と人材の育成に寄与することが目的で私たちが持つ知的資源と東秩父村の環境資源を活かした活動・交流により、共に育ちあえる関係を築き上げていきたいと考えております。

3.私たちが「ふるさと支援隊」として東秩父村に貢献したいこと(活動目標)

① 東秩父村の魅力について知ること

まずは、東秩父村という地域の特徴や歴史、文化、自然環境などを学びます。村の成り立ちや、伝統工芸である和紙づくり、地元の人々の暮らしぶりなどを調べることで、地域の背景を理解します。現地を訪ねたり、村民の方に話を聞いたりすることで、教科書では学べない「生きた地域の魅力」を発見します。

② 学生目線で、新しい魅力を探し出すこと

次に、若者である学生の視点から、これまで気づかれなかった東秩父村の新しい魅力を探します。自然の美しさや人の温かさに加え、SNS映えする場所、ユニークな体験、世代を超えて共感できる価値などを見つけ出します。自分たちの感性を生かし、地域の未来につながる新しい視点を提案します。

③ さまざまな媒体でその魅力を広く発信すること

取材を通して得た魅力を、記事、写真、動画、SNS、ポスターなど多様な媒体で発信します。伝える手段を工夫することで、より多くの人に東秩父村の良さを知ってもらうことができます。見た人が「行ってみたい」と思えるような、魅力的で温かみのある発信を目指します。

④ 東秩父村を訪れる人を増やすこと

最終的な目標は、東秩父村を実際に訪れる人を増やすことです。発信した情報をきっかけに、観光客や学生、家族連れなどが足を運び、地域が活性化することを目指します。村を訪れた人が「また来たい」と思えるような体験を提供し、持続的に地域を支える循環を生み出します。



地域連携活動発表会

2025

4. 私たちが「ふるさと支援隊」として活動してきたこと

① 「東秩父村通信」の継続発行

学生が自ら取材・編集を行う地域情報誌「東秩父村通信」を定期的に発行します。村の行事や特産品、地元の方々の思いを丁寧に伝えることで、地域の今を記録し、村内外に発信します。紙面づくりを通して、編集力や取材力、チームでの協働力を養うことを目指します。

② 「東秩父村魅力再発見動画」の続編制作

過去に制作したPR動画を発展させ、より多面的に村の魅力を伝える続編を制作します。学生目線で企画・撮影・編集を行い、SNSや学内イベントで発信します。村民との協力を通して、地域の温かさや新しい魅力を映像表現で届けます。

③ ボードゲームの創作と槻川小学校の児童との交流

村の文化や名所をテーマにしたオリジナルボードゲームを制作し、槻川小学校の児童と一緒に遊びながら交流します。楽しみながら学べる教材として村への理解を深め、子どもたちに地域の誇りを感じてもらうことを目的としています。

④ 大学内における広報活動（高麗祭、地域活動報告会、公開講座等）

学園祭や地域活動報告会などの場を活用し、ゼミの取り組みを紹介し、来場者に東秩父村の魅力を伝える展示や発表を行い、他学部・地域の方々との交流を広げます。大学の地域連携活動としての発信力を高めることを目指します。

⑤ 杉並区和田中学校での出前イベント

城西大学と和田中学校の連携の一環として、地域や観光をテーマにしたワークショップや体験授業を実施します。東秩父村の活動を紹介し、中学生が地域課題に関心を持つきっかけをつくります。次世代への地域理解教育にもつながります。

⑥ 訪日外国人に向けた東秩父村PR活動（浅草）

浅草など観光地で訪日外国人を対象に、英語や多言語で東秩父村の魅力を発信するPR活動を行います。パンフレット配布や対話を通して、村の伝統や自然の魅力を国際的に広めます。学生の語学力や発信力を実践的に高める貴重な機会です。



5. 私たちが課題だと感じていること

① 東秩父村の魅力について、もっと知る必要がある

活動が続ける上で、地域の自然・文化・人々の魅力をもっと深く理解することが重要です。現地取材や住民との交流を通じて、発信内容に説得力と温かみを持たせるために、私たちはもっと東秩父村を訪れたいと思います。

② 企業との連携等、情報発信方法のBrush Upの必要

SNSや動画、イベントなど、多様な媒体を活用した効果的な情報発信が必要です。企業や他大学との協働を進め、プロモーション力を高める工夫をしたいと思います。

③ 就職活動と支援活動の両立の困難さ

支援活動への熱意を持ちながらも、就職活動の時期と重なることで時間的・精神的負担が生じます。計画的な活動スケジュールとチームでの分担が鍵となります。

④ 4年生から3年生へ、どのように引き継いでいくか

活動の継続には、経験やノウハウの共有が欠かせません。資料の整理やプレゼン練習、共同活動を通して、次年度のメンバーが自信を持って活動できる体制を作ることが大切です。



2025年度経営学部三國ゼミ4年生

